

犀川スキーバス事故37年 犠牲者の同級生ら追悼



慰霊碑に手を合わせる日本福祉大
の丸山理事長＝長野市信更町で

長野市信更町で一九八五年に日本福祉大(愛知県美浜町)のスキー合宿に向かうバスが犀川のダム湖に転落し、学生ら二十五人が死亡した事故は二十八日、発生から三十七年となった。事故現場付近にある慰霊碑では、大学関係者や犠牲者の同級生らが追悼の祈りをささげた。

後、慰霊碑に献花した。日本福祉大の丸山悟理事長は「一月二十八日を忘れてはならない日として本学の歴史に深く刻みたい」とあいさつした。

事故を起こしたバスに乗っていた香山久子さん(五〇)「埼玉県蕨市」は「亡くなった人にとって風化が一番悲しいことだと思う。彼らの分まで精いっぱい生きて、事故のことを伝えていきたい」と力を込めた。

事故は八五年一月二十八日午前五時四十五分ごろ発生。日本福祉大の学生ら四



十六人が乗ったバスが国道19号のカーブでスリップし、犀川に転落。学生二十二人と教員一人、乗務員二人が死亡した。(小山豪)

日福大でも集会
風化防止へ決意

愛知・美浜

愛知県美浜町の日本福祉大美浜キャンパスでは二十八日、犀川のバス転落事故で亡くなった学生ら二十五人の追悼集会が開かれた写真。

集会はキャンパス内の慰霊碑の前で執り行われた。故人の名前が読み上げられ、児玉善郎学長が「改めてご遺族の悲しみに深く思いを寄せ、事故を忘れず教訓を次世代に引き継いでいく。悲惨なバス事故を風化させないとともに、二度と繰り返さないように取り組んでいく」と述べた。

学生を代表して追悼の言葉を述べた社会福祉学部二年山崎陸さん(二〇)は「亡くなられた先生や先輩方のために一日一日を大事にし、その思いを後輩たちに語り継いでいこうと強く思った」と語った。